



雌阿寒岳(左)阿寒富士 オンネトー湖畔より

阿寒摩周国立公園オンネトーの南 阿寒富士西麓の森を 4.4kmにわたって切り開く 新しい道路に反対します！



阿寒富士(右)西麓の森

新しい道路とは…

現在、北海道（道路課）は雌阿寒岳噴火時の避難道路として道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の整備計画を進めています。計画路線は現道から大きく離れ、阿寒摩周国立公園第2種特別地域を含む4.4kmにわたってアカエゾマツ主体の森林を新規に開削するものです。



帯広建設管理部公表資料より

環境省は、2015年中央環境審議会自然公園等小委員会で有効幅員の変更を承認しましたが、それは現道の整備を想定したものです。しかし、計画路線は現道から大きく離れ第2種特別地域を破壊し、その存在価値を失わせるものです。

噴火してからの避難では被害を防げません

新しい道路は噴火してから避難することを想定した設計です。しかし道路整備をしても噴火前に避難しなければ、火砕流・融雪泥流や噴石を避けることはできません。現在、噴火警戒レベル3でオンネトー湖畔は観光中止ですが、さらなる安全を期してレベル2で登山全面規制と観光中止とすれば新規開削は不要です。

そこはアカエゾマツの森、風穴の谷

この地域は風穴地帯の特異な自然生態系です。阿寒富士からの玄武岩質溶岩流による凹凸の激しい地形のとくに凹部では多数の風穴が見られ、夏季でも地温が0℃に近い場所も多く、低温湿潤環境のもと、アカエゾマツ林



が発達し、林床には希少種を含め多種の蘚苔類が広がります。また、低標高(600m前後)でありながら、コケモモ、イソツツジなど高山植物が繁茂しています。



この地域に特徴的な植物

(上:左から)ハクサンシャクナゲ・イソツツジ
・コケモモ・ゴゼンタチバナ (下:左から)
イワダレゴケ・タチハイゴケ・ダチョウゴケ

いま、環境大臣・北海道知事宛の署名活動をしています！

【呼びかけ団体】北海道自然保護連合（十勝自然保護協会・大雪と石狩の自然を守る会・ユウバリコザクラの会・南北海道自然保護協会・一般社団法人北海道自然保護協会）
【問い合わせ先/紙の署名用紙の送り先】〒083-0001 北海道中川郡池田町旭町1-6-9 十勝自然保護協会事務局 《連絡先：TEL015-572-4012》

オンライン署名もやっています。 <https://www.change.org/Akan-Mashu-NP>

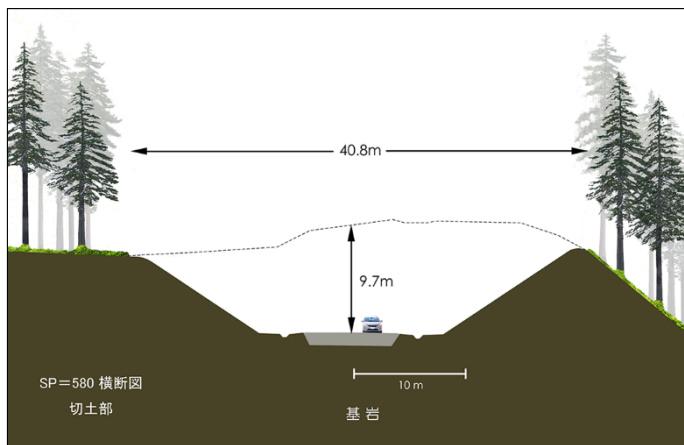
伐採幅は50mにも…

凹凸の激しい地形を平坦化した道路にするためには凹凸は盛土、凸部は切土にしなければなりません。

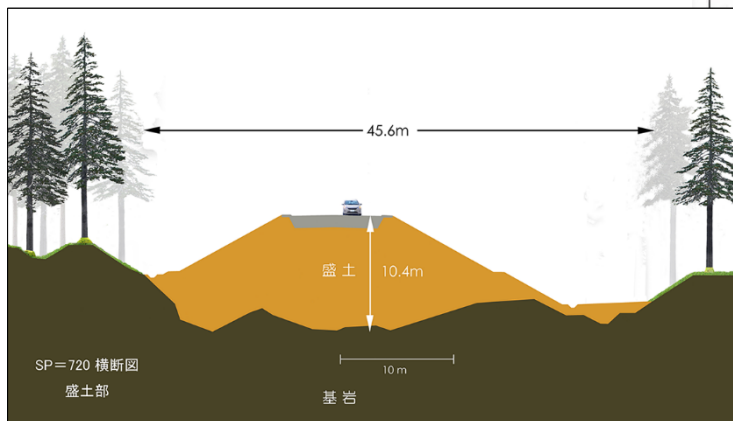
切土、盛土による法面（のりめん）はかなり広く、道路幅 5.5m でも伐採幅は 30～50m にもなります。

切土部・盛土部の横断面図 …車両を添えた概念図…

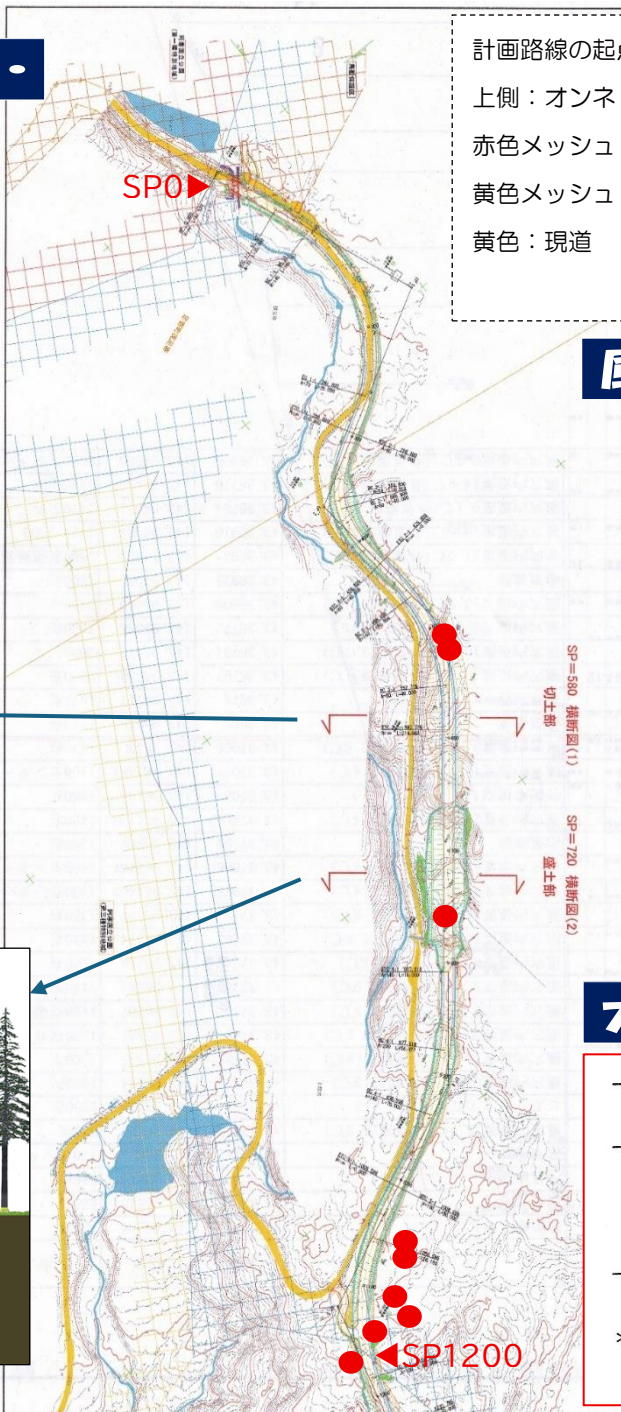
帯広建設管理部の公表資料(横断面図)を基に塚田晴朗作成



SP580 切土部横断面図(開削幅 40.8m、掘削深度 9.7m)



SP720 盛土部横断面図(開削幅 45.6m、盛土高度 10.4m)



計画路線の起点SP0（オンネトー南端の橋そば）～SP1300付近

上側：オンネトー方面 下側：上螺湾方面 SP1200まで第2種特別地域

赤色メッシュ：第1種特別地域 青色メッシュ：第2種特別地域

黄色メッシュ：第3種特別地域

黄色：現道 橙色：計画路線切土部 緑色：計画路線盛土部

…帯広建設管理部の公表資料から抜粋

風穴周辺に生育するミスゴケ属



ミスゴケ属は阿寒摩周国立公園の指定種です。ホソバミスゴケ（写真左）、ゴレツミスゴケ（右）は風穴周辺で生育しています。とくにゴレツミスゴケは道内では産地の少ないミスゴケで道内の風穴では十勝三股十四の沢永久凍土と然別湖周辺に次ぐ3例目。計画路線内と周辺部で10か所の群落が確認されています。【左図の●（おおよその位置）】 写真 塚田晴朗

大幅な開削で予想されること

- 凍土の融解・地下水脈の分断
 - 低温湿潤環境の消滅／林内の乾燥化
- 道路沿いの日射量・気温・湿度・風通しなどの大きな変化
 - エッジ効果により林縁部の樹木・草本・コケ層に大きな影響
 - 劣化・衰退・風倒・枯死・消失
 - 林内へのさらなる乾燥化／植生の変化
- 広大な法面へ それまでに見られなかった植物の侵入・繁茂
 - 外来植物、乾燥に強い在来植物（ササ：現在は生育せず）
- *降雨・積雪など気象要因や動物の歩行などで法面の崩壊
 - 毎年、修復に追われ、維持管理費がかさむ！

環境大臣 石原 宏高 様
北海道知事 鈴木 直道 様

道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の 整備計画を見直してください。

現在、北海道が雌阿寒岳噴火時の避難道路として進めている道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の整備計画は、現道から大きく離れ、阿寒摩周国立公園第2種特別地域を含む約4kmにわたってアカエゾマツを主体にした森林を新規に開削します。

しかし、人や車両の避難が目的であるならば、噴火警戒レベル3になった時点でオンネトー湖畔からは人がいなくなると考えられます。さらなる安全を期して観測体制を一層充実させ前兆感知による噴火警戒レベル2の段階で山頂部の登山規制に加えて湖畔への立ち入りを禁止すれば、避難路としてあえて森林を新規開削する必要性は全くありません。

この地域は風穴地帯の特異な自然生態系です。阿寒富士からの玄武岩質溶岩流による凹凸の激しい地形のとくに凹部では多数の風穴が見られ、夏季でも地温が0℃に近い場所も多く、低温湿潤環境のもと、アカエゾマツ林が発達し、林床には希産種を含め多種の蘚苔類が広がります。また、低標高でありながら、コケモモ、イソツツジなど高山植物が繁茂しています。

切土盛土が連続し法面を含む最大50m前後の伐採幅になり、直線的空間が出現することになるこの整備計画が、わが国の傑出した景観と生物多様性等を保全する重要な拠点である国立公園の自然環境に大きな影響を与えることは明白です。

環境省におかれましては、2015年環境省中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会（第31回）が承認した路線とは全く異なる新規路線であることから、北海道に対し整備計画の再検討を求めているதாகたく強く要望いたします。

北海道におかれましては、本整備計画を白紙に戻すことを強く要望いたします。

氏 名	住 所（都道府県名もお書きください）

この署名を環境大臣宛・北海道知事宛に提出する以外の目的に使用することはありません。2026年2月28日までに下記に届けてください。

【呼びかけ団体】

北海道自然保護連合（十勝自然保護協会・大雪と石狩の自然を守る会・ユウパリコザクラの会・北海道自然保護協会・一般社団法人北海道自然保護協会）

【署名送り先】

〒083-0001 北海道中川郡池田町旭町1-6-9 十勝自然保護協会事務局 《連絡先：TEL015-572-4012》